

網地島の四季・花マップ

夏・秋編

この「網地島の四季・花マップ」は、宮城県高度情報化推進協議会普及啓発事業助成事業の助成を受けて作製されました。

野生植物研究所

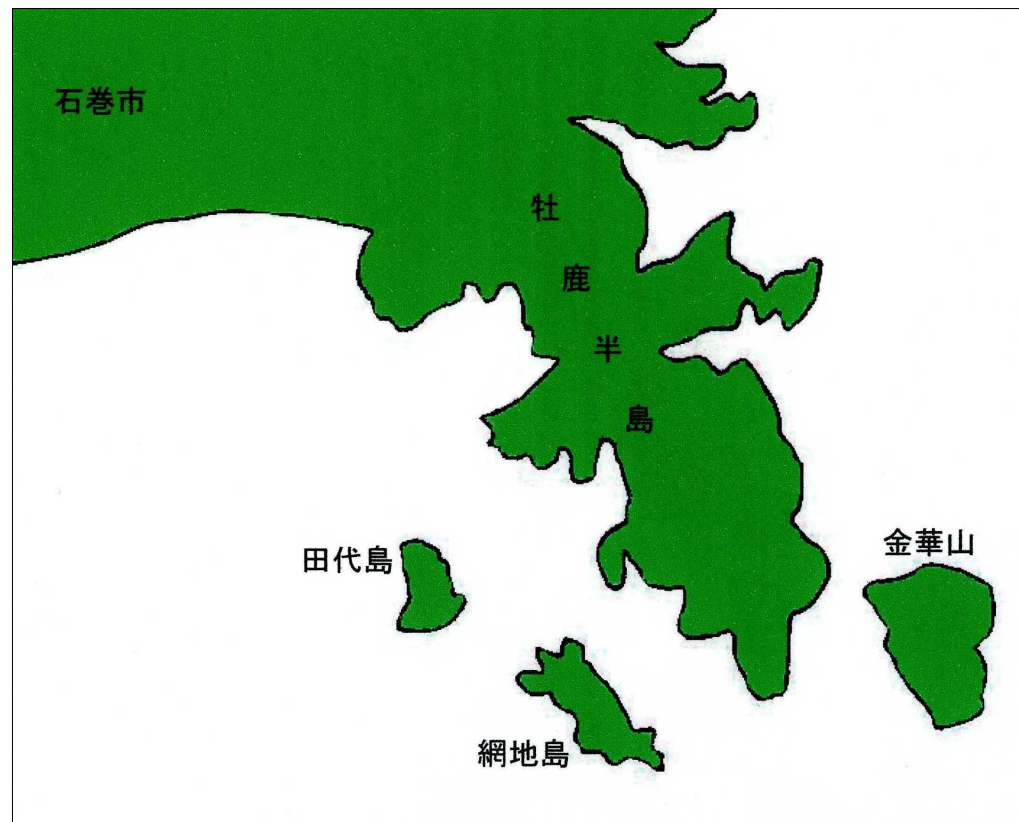
高橋和吉



網地島の四季・花マップ 夏・秋編

- 網地島とは

網地島(石巻市)は、宮城県東北部の牡鹿半島最南端にあり、観光地として有名な金華山の反対側に位置しています。島の大きさは、周囲20.7キロメートル、広さ6.43平方キロメートルで、細長い形をしています。



網地島の四季・花マップ 夏・秋編

- **島の集落**

集落は、大きく2つに分かれ、島の南側に長渡浜(ふたわたしはま)行政区、島の北側に網地浜(あじはま)行政区があります。

- **島の人口**

島の人口は、最盛期には3,000人を超えた時代もありましたが、現在は540人ほどで、高齢化が進んでいます。

網地島の四季・花マップ 夏・秋編

- 「網小医院」と「島の楽校」

島の中央部には、廃校になった網長小学校を改築して開院された「網小医院」と、網長中学校を利用した体験施設「島の楽校」があります。



※ この地図は、国土地理院発行の「ウォッチず」2万5千分の1 を使用したものです。

網地島の四季・花マップ 夏・秋編

- 気候

温暖で、寒暖の差が少なく、厳冬の期間でも、月平均気温が0℃以下になることはありません。雪が降っても2～3日で解けてしまいます。

- 常緑樹の多い島

島全体にタブノキが生え、トベラ、ヒサカキ、シュロ(自生ではない)など、暖帯性の樹木が普通に見られ、冬でも緑で覆われています。また、場所によっては、1月中旬頃よりツバキの開花も見られます。

- シュロの林

江戸時代に、四国から持ち込まれたというシュロが島の各地に増え、現在では島全体に見られます。所によっては、シュロの林のような所も見られます。

網地島の四季・花マップ 夏・秋編



タブノキ(クスノキ科)



トベラ(トベラ科)



ヒサカキ(ツバキ科)



シュロ(ヤシ科)

網地島の四季・花マップ 夏・秋編

観察コース

【長渡浜地区】

●根組・湊波岐崎(どわめきさき)コース

民家の垣根、道端の植物の観察をしながら、灯台のある湊波岐崎に向います。畑のある場所を通り抜けると、野山の植物の観察になります。湊波岐崎は海崖植物群落が発達しており、ハマハイビャクシン、ハマギク、アサツキ、スカシユリ、ラセイタソウ、キリンソウなどが見られます。

【網地浜地区】

●浪入田(なみだ)・いしどの浜コース

浪入田に入るバス停から、いしどの浜まで歩きます。ホタルブクロやオミナエシ、テイカカズラ、また、県内では大変珍しいマルバハギなど、100種類以上の植物を観察することができます。

いしどの浜は礫の浜で、ハマニンニク、ハマエンドウ、ハマヒルガオ、ハマナス、ハマナデシコなど、海浜植物が豊富に見られます。また、海崖に見られるスカシユリやヤマユリは大変見事です。

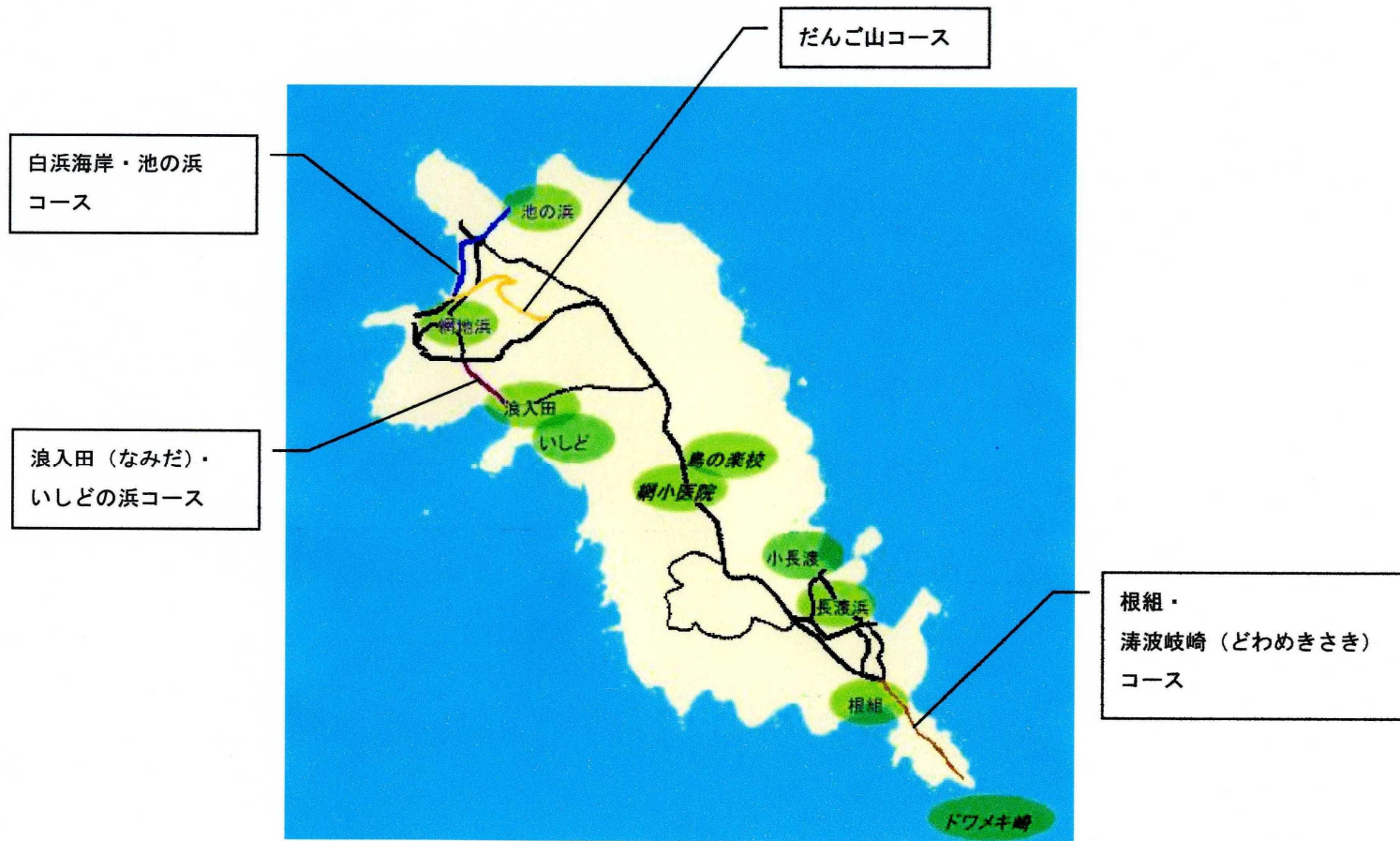
●ダンゴ山コース

白浜海岸からダンゴ山へかけてのコースです。タブノキが多く、シュロも沢山見られます。特にトクサの大群落は見事です。

●白浜海岸・池の浜コース

砂浜が広がり、海水浴場にもなっている白浜海岸は、ハマエンドウ、ハマニガナ、ハマヒルガオ、ウンラン、ハマナデシコ、オカヒジキなど、いろいろな種類の海浜植物が見られます。また、池の浜は昔、広大な水田があった所で、イヌスギナ、ヨシ、ウキヤガラ、ショウブなどの湿生植物が見られます。

網地島の四季・花マップ 夏・秋編



網地島の四季・花マップ 夏・秋編 ～初夏～

N 38:18:22.2 E 141:24:08.9

N 38:18:22.2 E 141:32:13.6

The map shows Meshima Island with five callout windows, each containing a photo and a description of a plant. The windows are titled '初夏1' (Early Summer 1).

- Hamahilgao (ヒルガオ科):** 海岸の砂浜などに生えるつる性の多年草。葉は丸く厚みがある。花の色は淡紅色でヒルガオに比べて濃い。
- Hamendou (マメ科):** 海岸の砂地などに群生し、茎は地面をはって長さ1mほどになる。大型で赤紫色～青紫色の美しい蝶形花をつける。山菜の一つ。
- Hamadaiyon (アブラナ科):** ダイコンが野生化したもので、海岸の砂浜に生育することが多い越年草。根は長いが太くならない。花弁は濃い紅色を帯びて美しい。山菜の一つ。
- Karasunendou (マメ科):** 野原や空き地など、いたる所に生える2年草。巻きひげで他の植物に絡み付きながら、上に向かって伸びる。紫色の蝶形の花が咲き、豆のような果実ができる。似た種類に花の小さいスズメノエンドウがある。山菜の一つ。
- Kasichigo (バラ科):** 島や海岸近くに見られる。高さ2mほどになり、葉も大型で、幅は20cmほどにもなる。果実は橙色に熟し、食べられる。

N 38:14:01.3 E 141:24:08.9

1km

N 38:14:01.3 E 141:32:13.6

※ この地図は、国土地理院発行の「ウォッチず」2万5千分の1を使用したものです。

網地島の四季・花マップ 夏・秋編 ～初夏～

N 38:18:22.9 E 141:24:09.9

N 38:18:22.9 E 141:32:05.1

初夏2
ヤマウコギ

ヤマウコギ(ウコギ科)
山地の林内に生える雌雄異株の落葉低木で、樹高は数mになる。葉は6小葉からなる掌状複葉。短枝の先に散形花序を出し、黄緑色の小さな花を多数つける。山菜の一つ。

初夏2
ツルウメドキ

ツルウメドキ(ニシキギ科)
山地に生えるつる性の落葉低木。雌雄異株。果実は球形のさく果で、秋に熟して3枚のからに裂ける。果実が裂けて黄赤色の種子が露出した枝を生花などに使用。

初夏2
ハマエンドウ

ハマエンドウ(マメ科)
海岸の砂地などに群生し、茎は地面をはって長さ1mほどになる。大型で赤紫色～青紫色の美しい蝶形花をつける。山菜の一つ。

初夏2
ニッコウキスゲ

ニッコウキスゲ(ユリ科)
山地に生える多年草。群生することが多い。花茎の先に3～4個、濃い橙黄色の花をつける。尾瀬が原のニッコウキスゲは有名である。山菜の一つ。

N 38:14:07.1 E 141:24:09.9

1km

N 38:14:07.1 E 141:32:05.1

※ この地図は、国土地理院発行の「ウォッチず」2万5千分の1を使用したものです。


網地島の四季・花マップ 夏・秋編 ~初夏~

N 38:18:22.2 E 141:24:07.3

N 38:18:22.2 E 141:32:21.7

初夏3

ハマナス [内容](#) [リンク](#)




ハマナス(バラ科)

海浜の砂地に生える落葉低木。観賞用として庭園などにも植えられる。枝にはとげを密生する。花は紅色、まれに白色、大形で径8cmほどもある。赤く熟した果実は食用になる。山菜の一つ。

初夏3

ウキヤガラ [内容](#) [リンク](#)





ウキヤガラ(カヤツリグサ科)

池や沼などの水辺に群落をつくる多年草。ウキヤガラの名は、浮き矢幹ということで、真っすぐに伸びる花茎に由来している。

初夏3

トベラ [内容](#) [リンク](#)





トベラ(トベラ科)

岩手県以南の海岸に分布する雌雄異株の常緑低木。果実は秋に熟し、3つに割れ、種子は赤い粘液に包まれる。トベラの名は、独特の臭気のあるこの木を節分に戸口にさして鬼払いした風習から、扉の木が訛った名。

初夏3

ノイバラ [内容](#) [リンク](#)




ノイバラ(バラ科)

原野や河原などの日当たりの良い場所に生える落葉低木。花は枝先に円錐花序を作って開く。秋に赤い果実が総り、民間薬として利用される。

初夏3

シュロ [内容](#) [リンク](#)



シュロ(ヤシ科)

九州南部に自生地があり、中国に分布する常緑高木。果実は秋に黒く熟し、鳥によって散布される。各地で植えられたものが野生化している。幹は葉鞘である繊維によって覆われている。その繊維は、分解しにくく、シュロ縄などに利用される。

N 38:13:56.1 E 141:24:07.3

1km

N 38:13:56.1 E 141:32:21.7

※ この地図は、国土地理院発行の「ウォッチず」2万5千分の1を使用したものです。

網地島の四季・花マップ 夏・秋編 ～初夏～

N 38:18:22.9 E 141:24:09.9

N 38:18:22.9 E 141:32:05.1

初夏4
ハマボス [リンク](#)

ハマボス(サクラソウ科)
海岸の岩場や草地などに生える2年草。茎は根本から数本の枝にわかれ、高さ10～40cm位になる。茎に赤味をおびるものも多い。

初夏4
ハマニンニク [内容](#) [リンク](#)

ハマニンニク(イネ科)
海岸の砂地に群生する大形の多年草。太くて長い地下茎がある。初夏に太い花穂を立ち上げるので、遠くからでもよく目立つ。名前は葉がニンニクに似ていることから付けられた。

初夏4
ウツボグサ [内容](#) [リンク](#)

ウツボグサ(シソ科)
日当たりのよいあぜ道や山際の草地などに生える、高さ10～30cmになる多年草。名前は矢を入れる藪(うづぼ)に似ていることから付けられた。民間薬、山菜の一つ。

初夏4
コウボウシバ [内容](#) [リンク](#)

コウボウシバ(カヤツリグサ科)
海岸の砂地に生える多年草。太い地下茎が砂の中を這って、節から葉や茎を出す。同じ仲間のコウボウムギに似ているが、実が小さい。

初夏4
テイカカズラ [内容](#) [リンク](#)

テイカカズラ(キョウチクトウ科)
岩手県以南に分布する常緑のつる性の木で、付着根を出して他物に這い上がる。宮城県では海岸地域に多く見られる。果実は細長いさや状で、長さが20cm以上にもなるものもある。

N 38:14:07.1 E 141:24:09.9

1km

N 38:14:07.1 E 141:32:05.1

※ この地図は、国土地理院発行の「ウォッチず」2万5千分の1を使用したものです。


網地島の四季・花マップ 夏・秋編 ～初夏～

N 38:18:22.9 E 141:24:09.9

N 38:18:22.9 E 141:32:05.1

初夏5

ハマヒルガオ [内容](#) [リンク](#)




ハマヒルガオ(ヒルガオ科)

海岸の砂浜などに生えるつる性の多年草。葉は丸く厚みがある。花の色は淡紅色でヒルガオに比べて濃い。

初夏5

スイカズラ [内容](#) [リンク](#)




スイカズラ(スイカズラ科)

つる性の低木。花ははじめ白色で、後に黄色と変化する。白と黄色の花が混在する様子から「金銀花」とも呼ばれる。民間薬の一つ。

初夏5

オオバイボタ [内容](#) [リンク](#)




オオバイボタ(モクセイ科)

海岸近くの低い山に生える半落葉低木。高さ2~5mほどになる。公害や病虫害にも強く、公園や庭園などにも植えられる。島には多く見られる。

初夏5

スイカズラ [内容](#) [リンク](#)




スイカズラ(スイカズラ科)

つる性の低木。花ははじめ白色で、後に黄色と変化する。白と黄色の花が混在する様子から「金銀花」とも呼ばれる。民間薬の一つ。

初夏5


テリハノイバラ [内容](#) [リンク](#)



テリハノイバラ(バラ科)

海岸地方の砂地に生える落葉低木。つる性で巻きつくものがないと地面を這う。花はノイバラより大きく、葉に光沢がある。

アサツキ [内容](#) [リンク](#)



アサツキ(ユリ科)

山野や海岸の砂浜、岩の割れ目などに生える多年草。花茎の高さは40~60cmほどになる。畑でも栽培され、野菜として売り出される。山菜の一つ。

N 38:14:07.1 E 141:24:09.9

1km

N 38:14:07.1 E 141:32:05.1


※ この地図は、国土地理院発行の「ウォッチず」2万5千分の1を使用したものです。

網地島の四季・花マップ 夏・秋編 ~夏~

N 38:18:22.9 E 141:24:09.9


N 38:18:22.9 E 141:32:05.1

夏1
ハマナス




ハマナス(バラ科)
海浜の砂地に生える落葉低木。観賞用として庭園などにも植えられる。枝にはどげを密生する。花は紅色、まれに白色、大形で径8cmほどもある。赤く熟した果実は食用になる。山菜の一つ。

夏1
オグルマ




オグルマ(キク科)
原野や田のあぜ道、池の淵など、湿った所に生える多年草。高さ20~60cmほどで、花は径3cmほどである。島ではめずらしい。

夏1
ヒメヤブラン




ヒメヤブラン(ユリ科)
日当たりの良い草地などに生える多年草。花茎は高さ20cm以下で、かわいらしい花をつける。果実は、種が露出して成熟し、球形で紫黒色。

夏1
スカシユリ



スカシユリ(ユリ科)
海岸の砂浜や岩場、崖を好んで生える多年草。園芸品種が多く、観賞用として多く栽培されている。花被(花弁とがく片)の下方がせまくなってすきまがあることにより、スカシユリの名がついたといわれている。

夏1
ハマイブキボウフウ



ハマイブキボウフウ(セリ科)
山地に生えるイブキボウフウの海岸型。海岸の砂地に生え、イブキボウフウと比べ、葉が厚く裂片が広い。

N 38:14:07.1 E 141:24:09.9

1km

N 38:14:07.1 E 141:32:05.1

※ この地図は、国土地理院発行の「ウォッチず」2万5千分の1を使用したものです。

網地島の四季・花マップ 夏・秋編 ~夏~

N 38:18:23.2 E 141:24:09.9

N 38:18:23.2 E 141:32:05.1

ヤマユリ

ヤマユリ(ユリ科)
山地に生える多年草。強烈な芳香がある。島ではヤマユリの自生が多く、昔は掘り取った鱗茎は畑に栽培され、大きく育てたものを国外へ輸出していた。山菜の一つ。

スカシユリ

スカシユリ(ユリ科)
海岸の砂浜や岩場、崖を好んで生える多年草。園芸品種が多く、観賞用として多く栽培されている。花被(花弁とかく片)の下方がせまくなってすきまがあることにより、スカシユリの名がつけられたといわれている。

ハマハイビヤクシン

ハマハイビヤクシン(ヒノキ科)
主幹が横に伏していちじるしく屈曲し、枝は斜上する低木。老木では鱗片葉をつけるものが多いが、若木では針状葉を混生する。海岸の岩場や崖に多い。

スカシユリとヤマユリ

スカシユリとヤマユリ
スカシユリは岩場の丈の低い草本などが生えている場所、ヤマユリはスカシユリよりも丈の高いトベラやヒサカキ、ススキなどが生えている土のある所に見られる。

エゾオオバコ

エゾオオバコ(オオバコ科)
海岸の砂地などに生える多年草。葉の両面に毛が密生していて葉が白っぽく見える。オオバコよりも小型。島では稀である。

ハマナデシコ

ハマナデシコ(ナデシコ科)
岩手県以南の本州から中国に分布する多年草。海岸の砂浜や産地などに生える。葉は厚くて光沢がある。別名フジナデシコ。

N 38:14:07.4 E 141:24:09.9

1km

N 38:14:07.4 E 141:32:05.1

※ この地図は、国土地理院発行の「ウォッチず」2万5千分の1 を使用したものです。

網地島の四季・花マップ 夏・秋編 ~夏~

N 38:18.23.4 E 141:24.08.8

N 38:18.23.4 E 141:32.11.3

夏3
ママコバンリヌグイ

ママコバンリヌグイ(タデ科)
道端や林縁、水辺などに生える一年草。葉柄にも茎にも逆向きの鋭い刺がある。名は継子の尻拭いということで、逆向きの刺のある茎で継子の尻を拭く草ということからついている。

夏3
ラセイタソウ

ラセイタソウ(イラクサ科)
海岸の崖や岩場などに生える多年草。高さは90cmほどになる。葉は厚く、表面は細かいしわとなってざらつく。名前はこの葉がポルトガル語でラセイタという毛織物に似ていることからついている。

夏3
オトギリソウ

オトギリソウ(オトギリソウ科)
山野に生える、高さ30~60cmほどになる一年草。名は弟切草ということで、兄が秘密にしていた鷹の傷薬を弟が他人にもらしたために怒った兄に斬り殺されたという平安時代の伝説からその名がつけられたといわれる。民間薬の一つ。

夏3
イチビ

イチビ(アオイ科)
インド原産の一年草。高さ2m以上にもなる。日本にも古くから知られており、栽培されて繊維植物として利用されたこともある。

夏3
ハチジョウナ

ハチジョウナ(キク科)
海岸に近い所に生える多年草。茎は高さ30~100cmほどになる。名は伊豆七島の八丈島の名をとったということですが、この植物が八丈島の原産と間違っつけられたということ。

N 38:14.02.6 E 141:24.08.8

1km

N 38:14.02.6 E 141:32.11.3

※ この地図は、国土地理院発行の「ウォッチず」2万5千分の1を使用したものです。

網地島の四季・花マップ 夏・秋編 ~夏~

N 38:18:22.9 E 141:24:09.9

N 38:18:22.9 E 141:32:05.1

夏4
ハマナデシコ 内容 リンク

ハマナデシコ(ナデシコ科)

岩手県以南の本州から中国に分布する多年草。海岸の砂浜や産地などに生える。葉は厚くて光沢がある。別名フジナデシコ。

夏4
ノブドウにアオスジアゲハ 内容 リンク

ノブドウ(ブドウ科)

山地や人家付近に生える蔓性の多年草。球形の液果は淡緑白色、紫色を帯び、後に碧色に変わる。果実が不規則にゆがんでいるのは虫食いである。この花の蜜を求めて、アオスジアゲハが乱舞するのがよく見られる。民間薬の一つ。

夏4
エビヅル 内容 リンク

エビヅル(ブドウ科)

山野に生える雌雄異株の蔓性の多年草。葉の裏側は褐色の綿毛におおわれている。液果は房となり、黒く熟し食べられる。果実酒の一つ。

夏4
クマツヅラ 内容 リンク

クマツヅラ(クマツヅラ科)

宮城県、山形県以南の本州、四国、九州などの野原や道ばたに生える多年草。県内では大変まれであるが、島にはわりと多く見られる。花穂は下からだんだん咲き上り、柄のない小さな紫色の花を多数つける。

トベラ 内容 リンク

トベラ(トベラ科)

岩手県以南の海岸に分布する雌雄異株の常緑低木。果実は秋に熟し、3つに割れ、種子は赤い粘液に包まれる。トベラの名は、独特の臭気のあるこの木を節分に戸口にさして鬼払いした風習から、扉の木が訛った名。

夏4
ラセイタソウ 内容 リンク

ラセイタソウ(イラクサ科)

海岸の崖や岩場などに生える多年草。高さは90cmほどになる。葉は厚く、表面は細かいしわとなってざらつく。名前はこの葉がポルトガル語でラセイトという毛織物に似ていることからついている。

N 38:14:07.1 E 141:24:09.9

1km

N 38:14:07.1 E 141:32:05.1

※ この地図は、国土地理院発行の「ウォッチず」2万5千分の1を使用したものです。

網地島の四季・花マップ 夏・秋編 ~夏~

N 38:18:23.4 E 141:24:07.7

N 38:18:23.4 E 141:32:12.4

夏5 ツルナ 内容 リンク

ツルナ(ハマミズナ科)

海岸の砂地や海辺近くに生え、時には畑に植えられる多年草。葉や茎とも全体が多肉質で無毛である。山菜の一つ。

夏5 オカヒジキ 内容 リンク

オカヒジキ(アカザ科)

海岸、砂地に生え、時には畑に植えられる一年草。陸に生え、ヒジキに似た多肉質の葉をもち、若葉をゆでて食べることで陸ヒジキの名がついた。山菜の一つ。

夏5 タブノキ 内容 リンク

タブノキ(クスノキ科)

暖地の海岸に近い所に生える高さ15mにもなる常緑高木。庭園にも植えられる。黒藍色に熟した液果は、ウミネコなどの鳥が好んで食べる。島に大変多い樹木の一つである。

夏5 ハマカキラン 内容 リンク

ハマカキラン(ラン科)

青森県から愛知県に至る太平洋側のクロマツ林下に生える多年草。島では、ごくまれに見られる。

夏5 ハマイブキボウフウ 内容 リンク

ハマイブキボウフウ(セリ科)

山地に生えるイブキボウフウの海岸型。海岸の砂地に生え、イブキボウフウと比べ、葉が厚く裂片が広い。

N 38:14:02.5 E 141:24:07.7

1km

N 38:14:02.5 E 141:32:12.4

※ この地図は、国土地理院発行の「ウォッチず」2万5千分の1 を使用したものです。

網地島の四季・花マップ 夏・秋編 ~夏~

N 38:18:22.9 E 141:24:09.9

N 38:18:22.9 E 141:32:05.1

夏6
ハマナデシコ 内容 リンク

ハマナデシコ(ナデシコ科)
岩手県以南の本州から中国に分布する多年草。海岸の砂浜や崖地などに生える。葉は厚くて光沢がある。別名フシナデシコ。

夏6
イヌドクサ 内容 リンク

イヌドクサ(トクサ科)
花が咲かず、胞子で増える常緑性のシダ植物。川原の砂礫地や海辺の砂地などに生える。茎は高さ1mにもなり、時に数本から多数の枝を出すことがある。

夏6
オオバジャネヒゲ 内容 リンク

オオバジャネヒゲ(ユリ科)
山林の日陰に群生する多年草。地下茎で増え、地面を覆うのでグラウンドカバーとして植えられる。根には紡錘状のふくれた部分がある。民間薬の一つ。

夏6
トクサ群落 内容 リンク

トクサ(トクサ科)
花が咲かず、胞子で増える常緑性のシダ植物。山地の林下や溪流ぞいなどの湿地に群生する。トクサは礎石代用の草ということで、こしなどを砥ぐのに使用される。島のトクサ群落は特におもしろい。

夏6
イナザンショウ 内容 リンク

イナザンショウ(ミカン科)
山野に生える落葉低木。サンショウは刺が対生するがイナザンショウは互生する。イナザンショウの名は、サンショウのような良い香りもせず、サンショウに似ているが人間にとっては役に立たないことを軽蔑してつけた。

夏6
ハマサオトメカズラ 内容 リンク

ハマサオトメカズラ(アカネ科)
サオトメカズラはヘクサカズラ(ヤイトバナ)の別名で、海岸に生育するサオトメカズラということでハマサオトメカズラの名がある。葉が厚く、光沢があり、海岸の乾燥地に多い。

N 38:14:07.1 E 141:24:09.9

1km

N 38:14:07.1 E 141:32:05.1

※ この地図は、国土地理院発行の「ウォッチず」2万5千分の1を使用したものです。

網地島の四季・花マップ 夏・秋編 ~夏~

N 38:18:22.9 E 141:24:11.0

N 38:18:22.9 E 141:32:04.0

夏7

スカシユリ

スカシユリ(ユリ科)

海岸の砂浜や岩場、崖を好んで生える多年草。園芸品種が多く、観賞用として多く栽培されている。花被(花弁とがく片)の下方がせまくなってすきまがあることにより、スカシユリの名がつけられたといわれている。

夏7

ガガイモ

ガガイモ(ガガイモ科)

日当たりのよい原野、路傍などに生えるつる性の多年草。茎や葉を切ると白い汁を出す。種子が風に乗って飛ぶように白い絹糸状の冠毛があるが、この毛をわたの代用として針さしや印肉に用いられる。

夏7

カセンソウ

カセンソウ(キク科)

日当たりのよい山野に生える多年草。高さは30~80cmほどになる。オグルマと花がよく似ていて見分けが付きにくい。カセンソウはオグルマよりも葉が細くて、かさかさして硬く、葉の裏側の葉脈がはっきり浮き出ている。

夏7

セリ

セリ(セリ科)

田や水路などに生える多年草。春の七草の一つであり、野菜として栽培もされている。山菜、民間薬の一つ。

N 38:14:07.1 E 141:24:11.0

1km

N 38:14:07.1 E 141:32:04.0

※ この地図は、国土地理院発行の「ウォッチず」2万5千分の1を使用したものです。

網地島の四季・花マップ 夏・秋編 ~夏~

N 38:18:23.6 E 141:24:11.5

N 38:18:23.6 E 141:32:17.5

夏8

ヤマナシ

内容 リンク

ヤマナシ(バラ科)

山中に見られる落葉性の高木。高さ5~10mになる。果実は径3~9cmで、秋に黄褐色に熟す。果肉は堅い。果樹として栽培されているナシは、このヤマナシが改良されたものである。果実酒の一つ。

夏8

マルバナスビトハギ

内容 リンク

マルバナスビトハギ(マメ科)

山地の草地、道端、林縁などに生える多年草。高さ30~120cm位になる。ヌスビトハギとの区別点は、ヌスビトハギの頂小葉が下方でもっとも幅が広いのに対し、マルバナスビトハギは頂小葉は広倒卵形で、上方でもっとも幅が広いことである。岩手県以南に分布。宮城県ではめずらしい。

夏8

ミズタマソウ

内容 リンク

ミズタマソウ(アカバナ科)

山地の林下に生える多年草。高さは20~50cm位になる。果実は径3~4mmで溝があり、白色のかき状の刺毛をつける。和名の水玉草は、白毛のある果実を露がかかった水玉にたとえた。

夏8

オニヤブマオ

内容 リンク

オニヤブマオ(イラクサ科)

海岸近くの山野に生える多年草。全体が大形で、高さ1.5mにもなる。葉は強剛で、裏面にピロロド状の毛が密生し、縁は重鋸歯にならない。

夏8

ヌスビトハギ

内容 リンク

ヌスビトハギ(マメ科)

山地の草地、道端、林縁などに生える多年草。60~100cm位になる。和名の盗人萩の名は、豆果の形をしのび足で歩く盗人の足に見立てたことによる。豆果は、表面に密生したカギ状の毛があり、動物などにくっつく。

N 38:14:00.8 E 141:24:11.5

1km

N 38:14:00.8 E 141:32:17.5

※ この地図は、国土地理院発行の「ウォッチャーズ」2万5千分の1を使用したものです。

網地島の四季・花マップ 夏・秋編 ~夏~

N 38:18:25.5 E 141:24:10.2

N 38:18:25.5 E 141:32:43.2

夏9
オオオナモミ 内容 リンク



オオオナモミ(キク科)
道端や荒地などに生える一年草。高さ50~200cmになる。ユーラシアまたは北アメリカ原産とされる帰化植物である。いかはかき状の刺があり、動物にくっつく。似た種類にオナモミ、トゲオナモミがある。

夏9
ケカモノハシ 内容 リンク



ケカモノハシ(イネ科)
海浜の砂地に生える多年草。高さ30~80cmになる。毛鴨ノ嘴は、全体に毛が多く、花穂が二個びったりついて立つ形が、カモのくちばしに似ている事からついている。

夏9
ハマサオメカズラ 内容 リンク



ハマサオメカズラ(アカネ科)
サオメカズラはヘクソカズラ(ヤイトバナ)の別名で、海岸に生育するサオメカズラということでハマサオメカズラの名がある。葉が厚く、光沢があり、海岸の乾燥地に適している。

夏9
ヒメヒオウギズイセン 内容 リンク



ヒメヒオウギズイセン(アヤメ科)
南アフリカ原産で、明治年間の中頃にモントブレチアの名で観賞用に導入された多年草。現在、人家の近くなどで野生化しているものが見られる。網地島では広く野生化している。

夏9
ムラサキツメクサ 内容 リンク



ムラサキツメクサ(マメ科)
路傍、草原など、日当たりの良い場所に生える多年草。ヨーロッパ原産の帰化植物で、牧草として明治時代に輸入され、野生化したものといわれている。シロツメクサよりも草丈が大きく、地面を這うよりも斜めに立ち上がるか、直立して伸びる。

夏9
シロバナツメクサ 内容 リンク



シロバナツメクサ(マメ科)
ムラサキツメクサの白花品。県内ではまれに見られる。

N 38:13:48.2 E 141:24:10.2

1km

N 38:13:48.2 E 141:32:43.2

※ この地図は、国土地理院発行の「ウォッチず」2万5千分の1を使用したものです。


網地島の四季・花マップ 夏・秋編 ~夏~

N 38:18:22.9 E 141:24:11.0

N 38:18:22.9 E 141:32:04.0

夏10

テイカカズラ [内容](#) [リンク](#)




テイカカズラ(キョウチクトウ科)

岩手県以南に分布する常緑のつる性の木で、付着根を出して他物に這い上がる。宮城県では海岸地域に多く見られる。果実は細長いさや状で、長さが20cm以上にもなるものもある。

夏10

クマンミズキ [内容](#) [リンク](#)




クマンミズキ(ミズキ科)

山地に生える落葉高木。高さは15m以上になる。葉は対生(ミズキは互生)、ミズキより花は1か月ほど遅く咲く。樹液が多く、早春、枝を切ったりすると水かしたたる。

夏10

オオマツヨイグサ [内容](#) [リンク](#)




オオマツヨイグサ(アカバナ科)

北アメリカ原産とされる2年草。明治初期、観賞用に日本に入り、栽培されたものが各地に広く野生化した。帰化植物。夕方大きい花が開き、翌朝こぼれ。

夏10

マルバハギ [内容](#) [リンク](#)




マルバハギ(マメ科)

日当たりのよい山地の林縁などに生える落葉低木。高さ3mほどになる。ヤマハギと比べ、葉が丸く、葉の脇に葉より短い総状花序を出して花をつける。

夏10

オカトラノオ [内容](#) [リンク](#)




オカトラノオ(サクラソウ科)

山地や草地、林縁などの日当たりのよい所に生える多年草。高さは1mほどになる。岡虎の尾ということで、岡に咲き、花の先が垂れ下がるように咲くのを虎の尾に見立てた名である。

夏10

ヤブカンゾウ [内容](#) [リンク](#)



ヤブカンゾウ(ユリ科)

林のきわや水田の畦など、日当たりのよい所に群生する多年草。葉の状態では、ニッコウキスゲやカンゾウとの区別はまず難しい。橙色の花は八重咲きで目立ち、他のものとすぐ区別がつく。山菜の一つ。

N 38:14:07.1 E 141:24:11.0

1km

N 38:14:07.1 E 141:32:04.0

※ この地図は、国土地理院発行の「ウォッチャーズ」2万5千分の1を使用したものです。

網地島の四季・花マップ 夏・秋編 ~秋~

N 38:18:22.9 E 141:24:11.0

N 38:18:22.9 E 141:32:04.0

秋1

シロバナサクラタデ

シロバナサクラタデ(タデ科)

水辺や湿地に生える多年草。地下茎を伸ばして増える。高さ30~60cm。花の色が淡紅色のサクラタデと似ているが、小さく、白色で平開しない。

シヤクチリンバ

シヤクチリンバ(タデ科)

路傍などに野生化している中国原産の多年草。高さ50~100cmになる。秋に花をつける。全草に血管補強成分ルチンを多量に含み、薬用として栽培されている。

秋1

ゼンニンソウ

ゼンニンソウ(キンポウゲ科)

山野、路傍などに生える常緑つる性の多年草。白色の花はたくさん集まって咲き、遠くからでも目立つ。有毒植物の一つ。

秋1

ヒガンバナ

ヒガンバナ(ヒガンバナ科)

畑のふちや基地などに群生する多年草。スイゼンと同じような形の鱗茎が地下にある。彼岸の頃、葉が出る前に花が咲く。彼岸花は彼岸の頃に花が咲くことからこの名がある。有毒植物の一つ。

秋1

ツリガネニンジン

ツリガネニンジン(キキョウ科)

山野の林縁や野原などに生える多年草。別名トキ。「山でうまいはオケラチトキ、里でうまいはナス、カボチャ、嫁にこれるも惜しゅうござる」という俗謡があるほど、ツリガネニンジン(トキ)は美味である。山菜の一つ。

N 38:14:07.1 E 141:24:11.0

1km

N 38:14:07.1 E 141:32:04.0

※ この地図は、国土地理院発行の「ウォッチず」2万5千分の1を使用したものです。

網地島の四季・花マップ 夏・秋編 ～秋～

N 38:18:22.9 E 141:24:11.0

N 38:18:22.9 E 141:32:04.0

秋2

オニグルミ

秋2

エビヅル

エビヅル(ブドウ科)

山野に生える雌雄異株の蔓性の多年草。葉の裏側は褐色の綿毛におおわれている。液果は房となり、黒く熟し食べられる。果実酒の1つ。

秋2

ミミガタテンナンショウ

ミミガタテンナンショウ(サイイモ科)

山野の林野に生える多年草。仏炎包の口の両側に耳たぶ形の付属物があることから耳形天南星の名がある。有毒植物の一つ。

秋2

ノハラアザミ

ノハラアザミ(キク科)

山野の日当たりのよい草地などに生える多年草。高さ50～100cmになる。アザミに似ているが、総苞に触れると粘らない。山菜の一つ。

秋2

ヌルデ

ヌルデ(ウルシ科)

山野に生える落葉小高木。高さ7mほどになる。ウルシのようにかぶれることはほとんどない。名は樹皮を傷つけた時に出てくる白い樹液を器具などに塗ったことに由来するといふ。ウルシ同様、紅葉がすばらしい。

秋2

オニグルミ(クルミ科)

河原などに生える落葉高木。各地で栽植されている。オニグルミは高品質の蛋白質と脂肪を含み、古くから栄養源として重用され、様々な料理に使用されてきている。

N 38:14:07.1 E 141:24:11.0

1km

N 38:14:07.1 E 141:32:04.0

※ この地図は、国土地理院発行の「ウォッチず」2万5千分の1を使用したものです。

網地島の四季・花マップ 夏・秋編 ～秋～

N 38:18:22.9 E 141:24:11.0

N 38:18:22.9 E 141:32:04.0

The map shows the island of Misaki with six callout windows, each containing a photograph of a flower and a text box with its name and description. The windows are:

- Top Left:** コハマギク (キク科). 関東地方以北から北海道にかけての太平洋岸の崖地や草地に生える多年草。高さ1.5～30cmほどでハマギクより小さい。秋、ハマギクの花が終りかけた頃より盛りを迎える。島では多く見られる。
- Top Middle:** クサボタン (キンポウゲ科). 山地の林縁や草地などに生える落葉低木。高さ1mほどになる。草牡丹は、葉が牡丹に似ることによる。
- Top Right:** オミナエシ (オミナエシ科). 山野の日当たりのよい所に生える多年草。秋の七草の一つ。年々、減少してきており、宮城県では準絶滅危惧種となっている。
- Bottom Left:** ハマギク (キク科). 茨城県から青森県の太平洋岸の崖地、草地、砂地などに生える多年草。高さ1mほどになる。観賞用として栽培される。島では多く見られる。
- Bottom Middle:** ハマギク (キク科). 茨城県から青森県の太平洋岸の崖地、草地、砂地などに生える多年草。高さ1mほどになる。観賞用として栽培される。島では多く見られる。
- Bottom Right:** コハマギク (キク科). 関東地方以北から北海道にかけての太平洋岸の崖地や草地に生える多年草。高さ1.5～30cmほどでハマギクより小さい。秋、ハマギクの花が終りかけた頃より盛りを迎える。島では多く見られる。

N 38:14:07.1 E 141:24:11.0

1km

N 38:14:07.1 E 141:32:04.0

※ この地図は、国土地理院発行の「ウォッチず」2万5千分の1 を使用したものです。